

学校名	新座市立第四小	学校
実施日	令和4年1月13日	

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「教員」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、学校教育目標達成に向けて、学年主任を中心とした高学年教科担任制等学年組織を活用し、共有した情報をもとに、組織的に学校運用を行っている。	B	教科担任制により、学年全体で児童やクラスを指導する意識が高まり、情報共有が効果よくできている。 部会用の周知ボードができて、これまで放送を入れていたが何をするか、どこでするか等分かるから計画的に動くことができる。また、主任も自分が主体で全体を動かしていくと視点があるから大変よい。 教壇の目的を共通理解できるとよい。教壇でも変わらず一生涯懸命自分の持ち分を責任持って果たす月々のオンライン授業、授業でのクロムブックの使用等、他校と比べても積極的な活用を行っている。	A	中央教育審議会等により、教科担任制が本年度から本格導入されることになっているが、四小はいち早く昨年度から取り組み、教材研究の効率化、きめ細かな指導等、授業の質の向上に努めている。
2	学校は、GIGAスクール構想に基づき、ICT機器を活用した教育活動を推進している。	B	高学年の児童は常にクロムブックを手にしている。生活に自然と馴染んでいるのは、今までにはなかった光景であり、ICT機器を活用した教育活動の第一段階は浸透してきている。次は機器を使った効果的な学習を進めていくことが課題である。 学級委員の真正は課題である。 校内研修で意識している。	A	月例オンライン授業をいち早く取り入れ、先生方が共通理解を図りながらICT機器を活用した教育活動を推進している。児童も楽しみながら取り組んでいる。今後は双方向型授業の質の充実を進めていきたい。
3	学校は、非認知能力の育成をすべての基礎にすえて、教育活動を実践している。	B	昨年年度から継続して非認知能力の育成を目指し、日常的に取り組めるようにしている。各校の非認知能力の課題を明確にし、学級経営と共に授業の中で自己肯定感を持たせる指導が必要。	B	

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	バランスよく校内分掌を振り分けている。 主任が業務を一層明確に把握し、部内で分担するよう意識化できるとよい。 校務分掌(教科担任)をバランスよく決定できるとよい。主要教科等は、学年に一人部会を充てるようにすることも検討事項である。	B	各主任、各分掌が機能し、組織的な運営と協力体制がなされている。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	教頭が1回目の結果からの改善案を数多く実践している。 運動会などの大きな行事は反省が出たらら部で検討して来年度の方向性を終了後1ヵ月以内に決定するなど、具体的に先を見据えて動けるとよい。	B	取組後の評価・改善(C-A)の時間を確保し、改善すべき点を次年度に生かしてほしい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	不審者対応については実際に起きたときの状況が想定しにくいので、実践力を身に付けておく必要がある。 来校者にあいさつをするなど、できることはしている。	B	危機管理マニュアルの見直し整備と周知徹底(教職員及び保護者にも)も図るようしてほしい。不審者侵入発生時の対応訓練も実施してほしい。あいさつによる不審者対応効果も意識させるとよい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	今後より一層、児童の主体性を引き出しながら教職員が見守り支援するルールにしていけるとよい。 教師によって偏りがあるので(思いや経験等)、学校としての軸を統一していく必要がある。	A	校内で四小学習ルールを定め、全校で取り組んでいることが伺える。全体的に落ち着いた雰囲気の中で学習できている。再検討の際は、それぞれの立場から意見を出せるとよい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	ICT機器を用いて意図的に言語を活用し、学びを広め深めようとしている。	A	コロナ対応で工夫しながらも、発表や話し合いの機会を意図的に設け、協力的な学びの活動を行っている。
9	学校は学習指導要領や黒板編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	「迷ったら学習指導要領を確認」を合言葉に、その他資料も含め研修を深めながら指導にあたっている。	B	学力・学習状況調査結果に基づいたデータ分析、課題に対する具体策を考案し、授業改善に役立てている。家庭との連携を図り、児童の学力向上につなげたい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	担任によるT指導の充実について、日々研修を深めている。 子供達の生活の中にもっと取り入れていく必要がある。	B	児童が楽しく学習に取り組んでいるが、習ったことが生かせるよう、EETと担任の連携、外国語活動の授業力向上の研修を深めてほしい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んでいきつたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	場面に応じて繰り返し指導を行っている。 子供同士の関わり合いの機会を増やすことで、ていねいな言葉づかいを必要とする場面を増やせるとよい。	B	家庭・地域の協力も得ながら、今後も児童への指導を地道に繰り返し続けてほしい。来校者に限らずあいさつができること、高学年が手本を示すことができる取組も検討してほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さを認め合っており、学校生活を送れるような環境を整備している。	B	道徳の授業の充実を引き続き行う。 道徳コーナーにオンラインの授業が掲示されていた。これからは道徳部を中心に掲示をするようにしてほしい。 学年間や学校全体で共有できる体制があり、効果をあげていると感じる。	A	児童に対して教師が寄り添い、温かい雰囲気がつくられている。道徳コーナー、生き物や植物など、環境の整備によって、温かい心の育成に努めている。その取組が一定の成果として表れている。継続してほしい。
13	学校は教職員自身が手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	時刻を守っている。 例年学年差が課題となるため、一層学年指導(給食や清掃指導のローテーション等)を推進するとよい。 教師によって差があるように感じる。	B	先生方の言動、服装等全てが児童の手本となっていることを自覚して今後指導にあたってほしい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などに於いて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	自分も外に出て遊ぶようにしている。 長縄跳びの連続回数クラス対抗やドッチボールクラス対抗など、具体的な取組を委員会などで提案できるとよい。	B	体育の授業を短め、業間休みの体力向上タイム、体育的行事の精選など、コロナ禍の状況下で厳しい面があったと思われる。なわとびの取組が充実している。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	毎日、食育自体も減らず食べさせることを意識している。	A	栄養士と連携して学級活動での「食育に関する指導」、献立の掲示、給食コーナー、給食習慣での食に関する取組がよくなされている。毎食残さず食べられることがほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	保護者の問い合わせに対する窓口の一本化を図り、適切な回答、意見をいえるようにしてきた。	A	保護者からの相談や意見は迅速、丁寧に対応している。担任一人で抱え込まず、管理職、学年に相談できているように感じる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	スクールメールで活動の様子が見られることも送られてくるため、ホームページを見る機会が増えている。 欠席連絡、行事予定の変更など日常的に保護者がHPを活用するよう工夫を多く取り入れている。	A	ホームページを活用しての第四小の教育活動の情報発信が、家庭、地域によくなされている。授業の動画や写真などの情報提供に保護者からのアクセス数なども多くなっている。保護者としても大変助かっている。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して再び運動、文化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	活動はコロナ禍により少なくなっているが、新規の取組案を検討し、PTA役員と連携して適切な活動について検討を重ねている。	A	コロナ禍の影響もあり、十分ではなかったものの、クリネス活動や通学班の見守り等、保護者や地域と連携しながら取り組んでいる。子供たちへ地域の活動のアピールをができていてよい。